

編集後記

第16号から印刷物としてではなく、電子媒体として発行することになった。この第19号で4冊目となる。これまでと同様に名古屋大学附属図書館のレポジトリに登録されるとともに、技術教育学研究室（横山研究室）のHPに掲載される。研究室のHPには、室報全体をPDF化したものを掲載している。

http://gi.jyutukyokuigaku.blogspot.com/p/blog-page_58.html

2018年7月より科研費挑戦的研究（萌芽）「学校図面分析による戦前戦後の技能労働者教育に関する歴史的研究」が採択された（2020年3月まで）。この研究の進行状況についても、HPが作成され、研究室のHPにリンクが貼られている。そのHPに研究成果が随時更新され、掲載されていく予定であるので、参照していただければ幸いである。

本研究室に長くかかわってこられた元愛知県工業高等学校教諭の花村富雄さんが難病を発症し、2019年1月8日に急逝された。多くの工業高校の教師が本研究室にかかわってくださったが、鬼籍に入られたのは花村さんで3人目である。一人目は、山本貴志夫さんで、本研究科に社会人入試が開始された時の第一期生であった。修士論文のテーマは、「西欧醸造技術の移転過程における技術者養成の歴史—1900代の醸造試験所の事業を手掛かりに—」であった。二人目は、本誌第4号に「明治期における技能者（技手）の教育機関の考察—攻玉社の土木技術教育について—」という論文を寄せていただいた中住健二郎さんである。本研究室に工業高校の教師が頻繁に出入りするようになったのは、本研究室の前身である技術教育学講座を担当された故佐々木享教授が1960年に創設された技術教育研究会の代表を長く務められたからである。その佐々木享教授が亡くなってから4年が過ぎた。2019年11月23日の午後1時から5時にかけて「佐々木享没後5周年記念シンポジウム」を名古屋大学教育学部大講義室において別紙のような内容で開催することを計画している。多くの方が参加されることを期待したい。

最後に、昨年7月に亡くなったデンマークのスロイド研究者であったベント・クリスティアンセン(Bent Christiansen)氏について触れておきたい。彼はコペンハーゲンにあったスロイド教員養成所の校長であり、デンマーク文部省にもスロイド担当の教科調査官として勤務された方である。デンマークのスロイドの歴史について関心を持ち、多くの資料を集められていた。私が Bent Christiansen 氏と初めて会ったのは、1998年10月にフィンランドのオーボ・アカデミーにおいて開催された、Lazaro Moreno Herrera 氏の”Cuban Sloyd”と題する博士學位論文の公開討論会と学位授与式の席上であった。その後、私は Bent Christiansen 氏の自宅に招待され、デンマークのスロイドの歴史に関する話を聞く機会を得ることになった。それ以来デンマークのユラン半島の先端近くにあるの広大な牧草地と森の中にある氏の邸宅を何度訪問したことだろうか。10回以上は訪問したと記憶している。たいていは2泊3日くらいで、朝から夕方まで話を聞かせていただいた。氏が所有していた資料も一部頂いた。Bent Christiansen 氏も 70

歳代の後半を迎えて、いよいよ農村では住みにくくなって、町に引っ越されることになった。その際に氏の所蔵資料の一部を名古屋大学教育学部図書室に寄贈していただいた。名古屋大学教育学部図書室にデンマーク語の本がかなりあるのは Bent Christiansen 氏が寄贈されたことによる。

2019 年 6 月から 7 月にかけて私はドイツのケルン大学に客員教授として招聘されることになった。その折に故 Bent Christiansen 氏の墓に花束を持ってお参りする予定である。130 年前、当時の民衆学校の教師たちが歌っていた歌の一節を以下に引用して、氏の冥福を祈りたいと思う。

“同志よ、教育の旗のもとに立ち上がれ！祖国の村に集まろう！より高貴な感覚が北歐人の美德のために我々の活動を励ますように。もし暗闇と偏見が圧迫するなら、光に向かって精神を前進させよう。家庭の平和の防衛に、平和の防衛にわれわれ自身を高貴にしつつ。”

(横山悦生)